

クルーズサマリー

1. 航海情報

- 1) 航海番号 MR16-08
- 2) 船舶名 海洋地球研究船「みらい」
- 3) 航海名称 インド洋・太平洋熱帯域における海洋気候観測研究/トライトンブイの運用
- 4) 首席研究者 植木 巖 (国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域)
- 5) 課題代表研究者 植木 巖 (国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境変動領域)
石原 靖久 (独立行政法人海洋研究開発機構 海洋工学センター)
- 6) 研究課題名

乗船課題

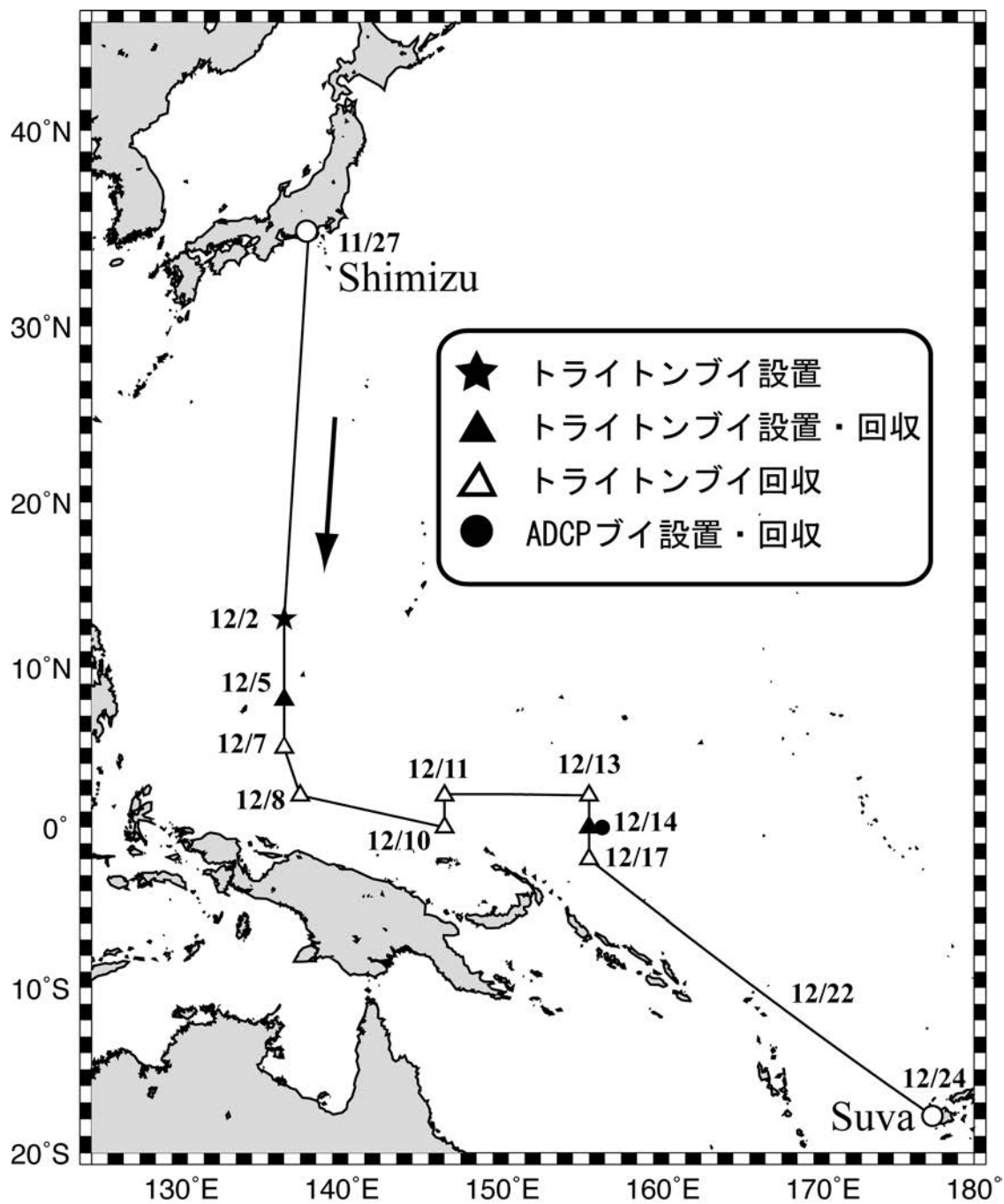
- (1) インド洋・太平洋熱帯域における海洋気候観測研究/トライトンブイの運用
(主要課題、PI: 植木 巖, 海洋研究開発機構)
- (2) 西部熱帯太平洋における外洋棲ウミアメンボ類(Halobates)の分布及び環境耐性能と、環境因子との関係についての生理・生態学的研究
(PI: 原田 哲夫, 高知大学)
- (3) 現場型 pH/pCO₂ センサによる鉛直連続計測技術に関する研究
(PI: 下島 公紀, 東京海洋大学)

非乗船課題

- (1) 海洋大気エアロゾル船上観測: 気候への影響をさぐる
(PI: 竹谷 文一, 海洋研究開発機構)
- (2) 船舶型スカイラジオメーター観測から得られる海洋大気エアロゾルの光学的特性
(PI: 青木 一真, 富山大学)

- 7) 航海期間 平成 28 年 11 月 27 日 (日) から 12 月 24 日 (土)
- 8) 出港地~寄港地
清水~スバ (フィジー共和国)
- 9) 調査海域名 西太平洋赤道海域

10) 調査マップ



2. 実施内容

1) 調査概要

本航海は海洋起源の気候変動現象であるエルニーニョ現象等に重要な役割を果たすと考えられている西部熱帯太平洋を対象海域とし、そこに存在する暖水の収束・散逸過程ならびにそこで生じている海洋・大気変動の諸過程を把握することを目的とする。そのため、本航海ではトライトンブイの展開を主として実施するとともに、共同利用型運用として採択された観測研究課題を実施した。観測航海時の熱帯太平洋の状態はラニーニャの様相を示しており、西太平洋の海面水温は平年より若干高めであった。

2) 観測項目

トライトンブイの設置 :	3 測点
トライトンブイの回収 :	8 測点
ADCP ブイの設置 :	1 測点
ADCP ブイの回収 :	1 測点
漂流ブイの投入	2 台
CTD 及び採水 :	14 キャスト
UnderwayCTD :	51 キャスト
XCTD :	3 測点
ラジオゾンデの放球	54 測点
海上気象観測 :	連続観測
ドップラーレーダー観測	連続観測
船舶搭載型 ADCP :	連続観測
地球物理観測 :	連続観測
表層海水連続分析 :	連続観測

*** 公募課題による他の観測も順調に行われた。